聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース

第 26 号　発行日：2013年 1 月　www.tsukuba-tech.ac.jp

国立大学法人
筑波技術大学

筑波技術大学では、大学のイベント情報や最新のニュースなどの様々な情報を提供するメールマガジンを配信します。ご登録は、登録用 URL（http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail_magazine）又は QR コードから行えます。みなさまのご登録をお待ちしております。

11 月 14 日、産業技術学部と保健科学部の学生による座談会が行われました。座談会では、講義のこと、寄宿舎での生活、サークル活動、将来のことなど、視覚と聴覚の障害の違いにもふれながら、障害を越えて活発な意見交換が行われました。座談会の内容は来年度の両学部案内に掲載される予定です。

（広報室）

年頭あいさつ

皆様には気持ちも新たに、新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

振り返ってみますと、昨年は開学25周年を迎え、記念式典・祝賀会、シンポジウムをお陰様で盛会裡に、つつがなく執り行うことができました。また、この数年間で見れば、「大学院の設置」をはじめ、「教職課程の開設」「留学生の受入れ」、東西医学統合医療センターの「リハビリテーション科の開設」「大学基金の設立」などが実現でき、大学として充実を図ることができました。これも皆様のご支援のお陰であり、感謝申し上げます。

引き続き、聴覚・視覚障害者を対象とする高等教育機関として、より良い社会自立を実現できる先駆的な人材を育成する教育に全力を傾注するとともに、「大学改革実行プラン」に示されている「教育力の強化と質の保証」「卓越した教育研究拠点の形成」「国際化の推進」「学び直しの推進」などに取り組む所存です。

また、これらの課題への対応と呼応して、学生の自学修時間の増加等を図るために、ソフト面での勉学環境を整備すること、「大学院情報アクセシビリティ専攻」や「理療科教員養成課程」の開設などを実現し、多様な教育の需要への対応を図ること、国内外の他大学への支援機能の充実を図るために、障害者高等教育研究支援センターの機能を全国共同利用・共同研究拠点として、さらに発展させること、などに取り組みます。

本年が皆様にとって良い年になりますことをお祈り申し上げますとともに、「頼りにされる筑波技術大学」「世界一の筑波技術大学」を目指し、一層の発展を期して、年頭の挨拶とさせていただきます。

教職員を前に年頭あいさつをする村上学長

筑波技術大学長　村上　芳則

産業技術学部で学ぶ留学生

現在、産業技術学部における留学生として、総合デザイン学科で3人の聴覚に障害のある留学生が学んでいます。

中国人の崔（さい）さんは長春大学特殊教育学院を卒業し、本学に約1カ月の体験学習を経て、日本の聾学校専攻科に1年間在籍後、本学の総合デザイン学科を個別入試で受験し2010年4月に入学しました。1年次から総合デザイン学科の学生として学び、現在、視覚伝達デザインコースの3年生として専門科目を学んでいます。

韓国人の李（い）さんと尹（ゆん）さんは、本学に特別聴講留学生として応募し2012年4月から1年間の予定で総合デザイン学科に在籍しています。2人は韓国ナザレ大学のキャラクターデザイン学部ユニバーサルデザイン学科の4年生で、本学の受講科目内容をナザレ大学の科目内容と読替えて単位認定を行う計画です。

3人の留学生は本学の留学生対応の日本語補講を受けながら在学生とともに専門科目を学び、本学の学生寄宿舎に入居して生活面でも本学学生との交流を深めています。

（総合デザイン学科　金田　博）

中国からの留学生の崔さん

韓国からの留学生の李さん（手前）と尹さん（左隣）

三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントを開催

11月23日、天久保キャンパス体育館やコミュニケーションホールにおいて、筑波大学と茨城県立医療大学と連携した、「第5回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント－障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しよう－」を開催しました。当日は気温10度、小雨という悪条件下にも関わらず、ボランティアスタッフや補助者を含め135名が参加し、賑わいを見せました。

実施されたのは、ビームライフル、フリークライミング、フライングディスク、自由遊び、ボッチャ、スポーツ吹矢及び卓球・音卓球・卓球バレーの7種目でした。大学の地域貢献事業として今後も継続するとともに、さらなる展開を図ることを検討しています。

（総務課企画・広報係）

ビームライフルの照準を合わせる参加者たち

1チーム4人で卓球台を囲みプレーする卓球バレー

つくば科学出前レクチャーを実施

11月27日、つくば市立吾妻小学校において、つくば科学出前レクチャーを実施しました。つくば科学出前レクチャーとは、つくば市内の研究者が、市内の小・中学校、高校へ出張して講義を行い、普段の学校生活では体験することのできない、より専門的なことを学習する特別授業です。今回は、吾妻小学校の3年生約120人を対象として行いました。

前半の1時間は障害者高等教育研究支援センター長の石原 保志教授が聴覚障害の体験や、手話の紹介を交えながら聴覚障害について説明をしました。また、後半の1時間は同センターの長岡 英司教授が点字の本を読んだり、音声読み上げソフトを使ってパソコンで文章を打ったりと、視覚障害者の生活や視覚障害者への支援について説明をしました。説明の間小学生たちはメモを片手に熱心に質問をする様子がうかがえ、大変有意義な講義となりました。

参加した小学生は元気に手を挙げて質問をしていた

点字本を読む長岡教授、真剣に耳を傾ける小学生たち

（総務課企画・広報係）

講演会「アジア地域の手話言語にみられる興味深い手型」を開催

障害者高等教育研究支援センターでは、11月5日、教員の資質向上を図るため、「アジア地域の手話言語にみられる興味深い手型（Interesting Handshapes in Asian Sign Languages）」と題した講演会を開催しました。講師には、本学と大学間交流協定を締結しているロチェスター工科大学名誉教授のスーザン フィッシャー（Susan Fischer）博士を迎えました。

ロチェスター工科大学・国立聾工科大学（RIT/NTID）は、学生及び教職員の交流が盛んに行われている大学で、スーザン博士も日本手話の研究のため、過去に何度も本学を訪れており、2002年には、「The Cross-Linguistic Study of Sign Languages」という演題で講演され、その内容を英文誌「TCT Disabilities vol.2（2003年3月発行）」に寄稿しています。

今回の講演会では、中国手話、台湾手話、韓国手話及び日本手話などにみられる有標な手型やその由来についてお話しいただき、大変興味深い内容でした。講演は日本手話で行われ、音声日本語通訳と字幕による情報保障が行われました。講演後の質疑応答では、各国の手話の違いなどについて、活発な意見交換が行われ、非常に有意義な講演会となりました。

（障害者高等教育研究支援センター　松藤　みどり）

ガチョウを表す台湾手話を示すフィッシャー博士

日本手話を使った講演に聞き入る参加者

平成24年度研究推進に関する講演会を開催

11月7日、天久保キャンパス講堂において、学術・社会貢献推進委員会主催の「平成24年度研究推進に関する講演会」を開催しました。今回は、著書に「やるべきことが見えてくる研究者の仕事術」「ハーバードでも通用した研究者の英語術」がある三重大学大学院医学系研究科・分子病態学教授の島岡　要氏に「研究者のための戦略的思考法」をテーマとしてご講演いただきました。

この講演では、ご自身の国内外での活動に基づき、「今すべきこと」「時間管理術のポイント」「10の原則」等、研究者としての成長を遂げるために知っておくべき考え方や仕事の仕方をお話しいただきました。また、この講演会には、本学教職員のみならず、つくば市内の複数の研究機関からも参加があり、講演途中に講師と参加者（約60名）の間で活発な質疑応答や意見交換が行われるなど、研究の活性化に有意義なものとなりました。

（学術・社会貢献推進委員会　大越　教夫）

講演する島岡三重大学教授

質疑応答の様子

つくばマラソンにマッサージボランティアとして参加

11 月 25 日に 42.195km と 10km を合わせて 1 万 4 千人が出走した「第 32 回つくばマラソン」にマッサージボランティアとして学生と教員が参加しました。

このボランティアは、2009 年から鍼灸学専攻の恒例行事となっています。参加メンバーは、鍼灸学専攻の 2、3 年生 15 名、教員 4 名及び補助員 2 名で、晴天に恵まれた秋日和の中、ゴールの筑波大学構内に開設されたマッサージコーナーでランニング直後の選手の施術を行いました。ピーク時は 40 分待ちとなる盛況ぶりで、本学のブースでは合計約 120 人のランナーにマッサージを行うことが出来ました。参加した学生も 42.195km を走りきった直後の選手の身体を実際に学ぶ良いチャンスを得ることができました。

（保健科学部　野口　栄太郎）

マッサージボランティアを行う学生たち

ボランティア参加後にブース前にて

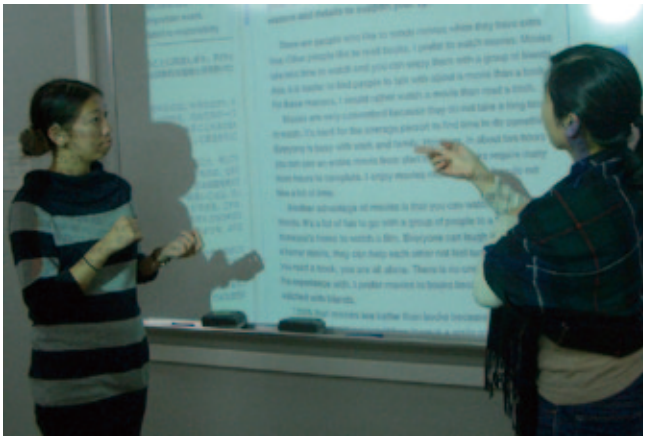
聴覚障害者海外奨学金事業留学奨学生に選ばれる

日本 ASL 協会の日本財団聴覚障害者海外奨学金事業 平成 24 年度 第 9 期留学奨学生に、総合デザイン学科 4 年生の瀧澤泉さんが選ばれました。この奨学金事業は、聴覚障害者を米国に派遣し、留学で学んだ成果を帰国後に各分野で実践・貢献することを目的とするものです。

瀧澤さんは昨年度本学留学生センター設置準備室が主催した「留学希望者講座」（講師：高山亨太氏）を受講し、今年度は教務委員会が実施したチューターによる英語の補習（講師：小林洋子氏）を受けて今回の奨学金に応募しました。絵本の作成を研究テーマにしており、希望する学位取得までの奨学金が得られることになりました。本学からは初めての合格者です。第二外国語としてアメリカ手話を受講しましたが、現在は日本 ASL 協会でさらに指導を受け、留学に向けて本格的な準備をしています。サークルで 4 年間茶道を学び、日本文化を海外に伝える役割も期待できます。

（障害者高等教育研究支援センター　松藤　みどり）

天龍祭でのお点前


指導を受ける瀧澤さん（左）

筑波技術大学基金の概要と募金のご案内

本学では、学生の教育･研究に関する活動を支援し、もって聴覚・視覚障害者として社会に貢献できる人材の育成に資することを目的に「筑波技術大学基金」を設置しております。

● 基金の概要

今年度は、基金創設初年度のため、事業実施に必要な諸制度、管理運営システム等を整備して、学生への支援事業を開始したところです。また、基金パンフレットを作成し、卒業生、在学生保護者、卒業生就職先企業、本学教職員OB、旧財団関係者、盲学校・聾学校などへ送付し募金活動を行うとともに、本学ホームページに基金ページを開設して、広く学内外にPR活動を行っています。

平成24年度事業につきましては、次のとおり、筑波技術大学教育研究助成財団※から継承した事業に加え、学生の臨床実習補助や海外派遣支援など、新たな支援事業を実施しています。

○ 放送大学との単位互換に伴う学習支援
○ 臨床実習補助金の支給
○ 学生企画コンテスト開催支援
○ 他大学との連携によるスポーツイベントの開催支援
○ 学生の顕彰を行う双峰賞の授与
○ 学生の海外留学補助金の支給（短期）

なお、平成25年度からは、平成24年度の事業に加え、次の新規事業を行う予定です。

○ 教育実習補助金の支給
○ 学生の海外留学補助金の支給（長期）

● 募金のご案内

募金につきましては、経済環境の大変厳しい折ではありますが、基金パンフレットの送付や企業等に直接訪問させていただき、広く末永いご支援をお願いしているところです。

なお、ご寄附をいただいた方々のご厚意に対して、感謝の気持ちを込めて、基金ホームページへご芳名を掲載させていただき、また、高額なご寄附に対しましては、本学天久保キャンパス大学会館に「筑波技術大学基金銘板」を設置し、ご芳名等を記して末永く顕彰させていただいております。

今後は、さらにPR活動を推進し安定的かつ永続的な財源を確保して、多様な学生支援を展開することとしていますので、多くの皆様方に格段のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

基金の内容等の最新情報については、ホームページでご案内しておりますので是非ご覧ください。

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/kikin.html

● お申込み・お問い合わせ

筑波技術大学 総務課内 基金担当
TEL：029-858-9416
※ 電話受付 9：00 ～ 17：00（土・日・祝日を除く）
FAX：029-858-9312
E-mail：kikin@ad.tsukuba-tech.ac.jp

※平成4年10月1日の発足以来、本学の学生、教職員を対象に教育研究活動の充実と発展のため、各種事業の助成をいただいた「財団法人筑波技術大学教育研究助成財団」は、平成24年3月31日をもって解散となりました。これまで財団が行ってきた事業は、平成24年4月1日に創設した「筑波技術大学基金」に発展的に継承され、解散後の残余財産は、財団の寄付行為に基づき本学に寄附されました。

ここに基本財産にご寄附を賜りました企業等の方々へ感謝の意を表しますとともに、財団を末永くご支援いただいた多くの皆様方へ深く感謝申し上げます。

筑波技術大学ニュース　第26号　発行　筑波技術大学 広報室　編集　筑波技術大学 総務課
発行日　平成25(2013)年1月　〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15　URL http://www.tsukuba-tech.ac.jp/
E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp　Tel 029-858-9424　Fax 029-858-9312